

令和元年度 中央区自治協議会提案事業 事業評価書について

1. 概要

各部会が作成した令和元年度の区自治協議会提案事業の事業評価書について、委員の皆様から内容をご確認いただくものです。

2. 各部会が実施した事業及び評価書について

各部会が実施したテーマ・事業名については以下の表のとおりです。
それぞれの評価書については別添資料 議 1-1～資料 議 1-4 です。

部会	テーマ・事業名	評価書
第1部会	古町・本町商店街の活性化に向けて ～古町・本町商店街に関するアンケート～	資料 議 1 - 1
第2部会	地域でつくろうささえ愛支援事業 ～赤ちゃんからお年寄りまで～	資料 議 1 - 2
第3部会	子どもを守る・育てる ～新潟の歴史から学ぶ防災まち歩き～	資料 議 1 - 3
第4部会	住環境の再生 ～バスを中心とした公共交通～	資料 議 1 - 4

3. 議決事項

別添資料 議 1-1～1-4 の事業評価書について、自治協議会として評価を決定してよろしいでしょうか。

本件の承認について、別紙「書面議決書」により6月5日（金）までにご回答いただきますようお願いいたします。

令和2年 3月31日

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会

区分	内容																	
テーマ・事業名	古町・本町商店街の活性化に向けて ～古町・本町商店街に関するアンケート～																	
事業目的・概要	商業施設の閉店や新たな施設(「古町ルフル」等)の建設など、古町・本町エリアが生まれ変わるこの機会に、古町・本町商店街に対して活性化の一助となるよう、区民の声を募り、商店街へフィードバックすることで、今後の賑わいづくりの取組みにつなげてもらう。																	
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>【令和元年度実施事項】</p> <p>○「古町・本町商店街に関するアンケート」の作成及び実施, とりまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施エリアや対象年齢などを検討 ・設問内容の検討 ・アンケートの実施 令和2年1月10日(金)発送～1月27日(月) ・結果とりまとめ(最終報告は4月予定) <table border="1"> <tbody> <tr> <td>対象エリア</td> <td>中央区内</td> <td>発送数</td> <td>2,000件</td> <td rowspan="4">回収率41.9%</td> </tr> <tr> <td>対象年齢</td> <td>18歳から79歳</td> <td>回答数</td> <td>838件</td> </tr> <tr> <td>抽出方法</td> <td>無作為抽出</td> <td>郵送・窓口</td> <td>706件</td> </tr> <tr> <td>調査方式</td> <td>郵送(WEB回答可)</td> <td>WEB</td> <td>132件</td> </tr> </tbody> </table>	対象エリア	中央区内	発送数	2,000件	回収率41.9%	対象年齢	18歳から79歳	回答数	838件	抽出方法	無作為抽出	郵送・窓口	706件	調査方式	郵送(WEB回答可)	WEB	132件
対象エリア	中央区内	発送数	2,000件	回収率41.9%														
対象年齢	18歳から79歳	回答数	838件															
抽出方法	無作為抽出	郵送・窓口	706件															
調査方式	郵送(WEB回答可)	WEB	132件															
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>○古町・本町商店街は江戸時代から湊町新潟の拠点として歴史を刻み、発展してきた地域であったが、これまでの生活様式が変わり、商業施設などの閉店が相次いでいる。その一方で「古町ルフル」などの施設が建設されるといった新たな動きもみられる。</p> <p>○部会において古町・本町の現状視察をした際に、空き店舗が多い状態が見受けられた。</p> <p>○古町・本町の活性化に向けて当部会でできることはソフト面での支援と考え、取り巻く状況や視察した結果を踏まえて、区民の考えを商店街に届けることになった。</p> <p>○対象者については、商店街でも独自に利用者を対象とした調査実績があることから、区内の若者から高齢者まで、商店街利用者に限らず様々な意見が寄せられるよう設定し、商店街がこれまで得られなかった意見を提供できるようにした。</p> <p>○アンケートには古町の来訪状況やその目的、消費に関する設問や、課題、必要なものや理想の姿などの設問を設定し、商店街が今後の取組みを考えるうえで参考になる内容を部会で検討して盛り込んだ。</p> <p>○アンケートは838名(回収率41.9%)からの回答があり、想定よりやや高い回収率であった。具体的な提案など幅広い意見が寄せられており、区民の関心の高さ、商店街のことを心配している様子も伺うことができた。</p> <p>○この調査結果は商店街のみならず、行政や商工団体、市民全般に提供することで賑わいを取り戻すための一助になることを期待する。</p>																	
備考																		

令和2年 3月31日

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域でつくろうささえ愛支援事業 ～赤ちゃんからお年寄りまで～
事業目的・概要	赤ちゃんからお年寄りまでの幅広い世代を対象に、地域の抱える福祉分野の課題を解決する地域内の支えあいづくりを目的とする。 上記目的の達成をかける事業を募集し、自治協委員との協働により、その事業の効果を高める。 このほか、区が実施する福祉・協働分野にかかる取り組みについて、助言やサポートを行い、実効性の向上を図る。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>【提案型による協働事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業募集にかかるチラシの作成 ○申請事業に対するサポート検討 ◇万代島こども秘密基地 主催者: みなとわいわいプロジェクト (2月29日, 3月1日) 集客が課題となっている万代島多目的広場にて、親子で遊べる場を提供し、万代島地区の賑わい創出を図る。同時に、福祉分野としては、障がい福祉関連のブース(視覚障がい体験, 親子手話など)を設置する。集客は1万人を想定。 【サポート内容】 ① 公共施設への広報ポスター掲示による周知を行う。 ② 学生ボランティアへの協力依頼を行う。 ③ 当日見学や簡単なボランティア活動をし、所見をフィードバックする。 <p>⇒コロナウイルス感染症の影響により、イベント開催中止。</p> <p>【区の取り組みへの支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自治会長・町内会長 感謝の集い」 ◇講演会の企画とアンケート作成に対する支援
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○第2部会は地域コミュニティ協議会の地域団体のほか、福祉分野で活躍する区支えあいしくみづくり会議や、はっぴいmama応援団、新潟青陵大学福祉心理学部といった専門分野に関わる委員らで構成している。 ○福祉分野の興味・関心のある課題として、少子高齢化を背景とする高齢者へのケアやこどもを含めた地域の中での居場所づくりの必要性が挙がる一方で、具体的な対応策としてどのような課題解決がなされているのかを知りたい、知らないという意見が多かった。 ○そこで、福祉分野の地域課題を解決しようとする取り組みを募集・サポートし、第2部会と協働することで効果が高まるような提案型協働事業を募集することとした。 ○部会で意見を出し合いながら募集チラシを作成し、広報手段として区ホームページや区だよりへの掲載、福祉関連施設、中央区民生委員へのチラシ配布を行ったが、申請が現状1件に留まっている。申請があった事業1件については、コロナウイルス感染拡大の影響により、残念ながら開催中止となってしまったが、面談を経て、サポート内容まで決定し、協働で事業を進めていくことができた。 ○来年度は、福祉関係者から支援を必要としている現場を聞き取り、チラシの配布先の再検討や団体への直接的な働きかけを行い、申請件数の増加を図る必要がある。 ○部会としては、講師の紹介やノウハウの提供、区役所や地域とのつなぎ、助成金情報の提供など、事業効果を高める支援を考えており、引き続き、実態把握のうえ、広報し、事業支援へとつなげていきたい。 ○区の取り組みへの支援としては、「自治会長・町内会長 感謝の集い」の講演テーマ及び講師選定への助言やアンケート項目の検討など、区が実施する事業のサポートを行うことで、事業効果を高めることができた。
備考	

令和2年 3月31日

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	子どもを守る・育てる ～新潟の歴史から学ぶ防災まち歩き～
事業目的・概要	子どもたちの防災意識を高め、安全に避難行動がとれるようにし、併せて地域の歴史を学び愛着・誇りづくりにつなげることを目的とする。 2か年かけて行う「新潟の歴史から学ぶ防災まち歩き」を実践事業とし、モデル校での試験的な取り組み・検証を通して実用性を高め、どこの小学校でも実践・活用できるような仕組みをつくり普及する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	【令和元年度実施事項】 ○「新潟の歴史から学ぶ防災まち歩き」の企画・調整 実践内容の検討 モデル校候補となる小学校への調整(実践は来年度秋予定) モデル校周辺のまち歩きを部会員で行う現地調査 過去の災害記録の調査
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	○第3部会は地域コミュニティ協議会の地域団体のほか、教育現場で活躍する地域教育コーディネーターや、防災士、新潟シティガイドといった専門分野に関わる委員らで構成している。 それぞれが抱える地域課題や興味・関心のある取り組みを募り、この部会だからこそできる事業や実施後も活用される事業を検討した。 ○教育現場では、防災に関わる授業が必須となっているが、その取り組み方法についてはまだまだ実践例が少ない状況である。実践例を小学校の先生に提示することで、子どもたちへの学習に役立ててもらうことができる。 ○防災士から専門知識を学びながら、実際に自分たちの住んでいる地域を歩くことで、子どもたちの防災スキル向上につながる。 ○地域にはそれぞれ歴史があり、それを学び、地域住民と交流することで地域の愛着・誇りづくりにつなげられると考えている。 ○モデル校での実践のため、候補となる小学校に協力を依頼し、区内2校での実施が決定した。来年度秋の実施を目指し、今後も、学校現場と協議を重ね、子どもたちにとってより良い授業となるよう計画していく。 ○子どもたちに作成してもらう防災マップについては、独自の名称「 み まもるマップ」を付けることで分かりやすく、親しみやすいものにしていく。 ○来年度、モデル校での実践を踏まえ、小学校への普及用パンフレットを作成し、学校での参考としてもらう。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	住環境の再生 ～バスを中心とした公共交通～
事業目的・概要	「バスを中心とした公共交通」をテーマに、住民・利用者の視点から公共交通の課題や解決策を検討する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>○今後、バスをより多くの人から利用してもらう上での課題を列挙したうち、より重要な課題を2つに整理した。</p> <p>課題①「乗ったことがない」「よくわからない」ことによる心理的バリア 課題②バスよりも車のほうが便利(と感ずること)</p> <p>○それぞれの課題に対する「PR強化」と「利便性向上」にかかる方策を検討し、「バス利用促進・環境改善プロジェクト」と題した資料にまとめた。</p> <p>○当部会で試行的に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にいがた新バスシステム時刻・運賃検索」PRチラシの作成 ・区役所窓口で転入者に対して交付している「転入セット」に上記チラシを封入 ・区内の公共施設、病院など広域から多数の人が集まる場所で上記チラシを掲示 ・NEXT21の1階アトリウムに公共交通案内の模範としてラックを設置 <p>○中央区地域公共交通検討会議の場で、各関係団体へ提案</p> <p>＜警察署＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許返納者へ公共交通の案内強化として制度の紹介などのチラシ配布 <p>＜新潟交通＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス停分散地区に各バス停の乗り場及び現在地を明確に知らせるマップの設置 ・バス停表示を近くの店舗名などの入った分かりやすい表示に変更 ・バス車内のWi-Fi設備や電源、ネット環境の整備 など
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>○当部会の委員は、バス利用者とは今はバスを利用していない人の視点があることから、バスを利用するうえでの課題と問題点が2つの視点から整理できた。</p> <p>また、1号委員だけでなく、公共交通研究家が部会のメンバーとなっていることによって、より専門的な観点から課題解決に対する取組みを行うことができた。</p> <p>○部会で作成した「にいがた新バスシステム時刻・運賃検索」PRチラシについては、新潟市へ転入される人に配布することによって、今後のバス利用へつながるものと期待される。</p> <p>○また上記チラシを公共施設などに掲示したが、掲示スペースの問題から、施設によって、公共交通の案内の充実度にバラつきがあった。しかし掲示施設数を増やすことで、今後のバス利用者の増加につながることが期待される。</p> <p>○当部会で課題解決に向けた方策を検討し、「中央区地域公共交通検討会議」で関係機関に直接、質問・提案できたことにより、それぞれの関係機関の取組状況も知ることができ、それを全体会議で委員にも伝えることができ、情報の共有ができたことは評価できる。</p> <p>○ハード整備にかかる高額な費用をはじめ、バスに関する様々な課題を再認識できた。</p> <p>○NEXT21の1階アトリウムにバスの時刻表やお得な制度の案内などを入れるラックを設置したことで、今まで5階の地域課窓口まで取りに行かなければならないという不便さが解消された。また1階に置くことで不特定多数の人の目に触れることから、公共交通の利用の意識醸成につながることが期待できる。</p> <p>○来年度以降も、引き続き、「にいがた新バスシステム時刻・運賃検索」PRチラシの活用や公共施設での案内掲示の充実など、区民のバス利用の意識向上につなげていきたい。</p>
備考	